

2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	空間骨組構造小委員会		主 査 名：川口健一 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 シェル・空間構造運営委員会		委員長名：中島正愛 主 査 名：小河利行
設 置 期 間	2008 年 4 月～2012 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>立体的な部材配置を特徴とする骨組構造（空間骨組構造）を対象とし、設計手法や評価手法を収集整理する。さらに、新しい骨組み構造のあり方、今後予想される様々な問題に対する知見などを予測、収集、分析し、工学分野へ応用できるような形に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年度(2009 年度)：仮題「ラチスシェルの座屈と座屈強度」の刊行及び刊行に伴い講習会を開催する。 ・ 3 年度：新しい空間骨組み構造のあり方について検討する。また、世界的な気候変動や、経年劣化、用途の変更などに伴う骨組み構造の補強、維持管理、増築、改築、解体手法について課題を整理する。 ・ 4 年度：前年度に整理した課題をさらに公の知見として検討するためにシンポジウムなどを開催する。 		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：川口健一(東京大学) 幹事：萩原伸幸(大同大学)、中澤祥二(豊橋技科大) 委員：植木隆司(巴コーポレーション)、小河利行(東京工業大学)、奥出久人(竹中工務店)、加藤史郎(豊橋技科大)、坂 壽二(大阪市立大学名誉教授)、杉崎健一(サットコンサルタント)、谷口与史也(大阪市立大学)、藤本益美(大阪市立大学)、古川忠稔(名古屋大学)、山田聖志(豊橋技科大)、山本憲司(鹿児島大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>「柔および剛な立体構造の形態と力学特性 WG」 (新しい空間骨組み構造と新しい時代(21 世紀)における空間骨組み構造のあり方について調査することを目的としている。空間骨組みの優れた特性を活用し自由な形態と空間を実現するための新しい空間骨組構造を探求する。</p>		
2010 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 新しい空間骨組み構造の課題について、中澤委員、古川委員から話題提供を得るなど、新しい課題を委員会内で共有することができた。</p> <p>2. 震災によりシンポジウム開催はならなかった。</p>
委員会活動の問題点・課題	1. 新しい課題に詳しい委員の参加を公募或いは勧誘する。